



K-I-F-A Plaza

第5号

1990年3月15日発行

〈発行〉

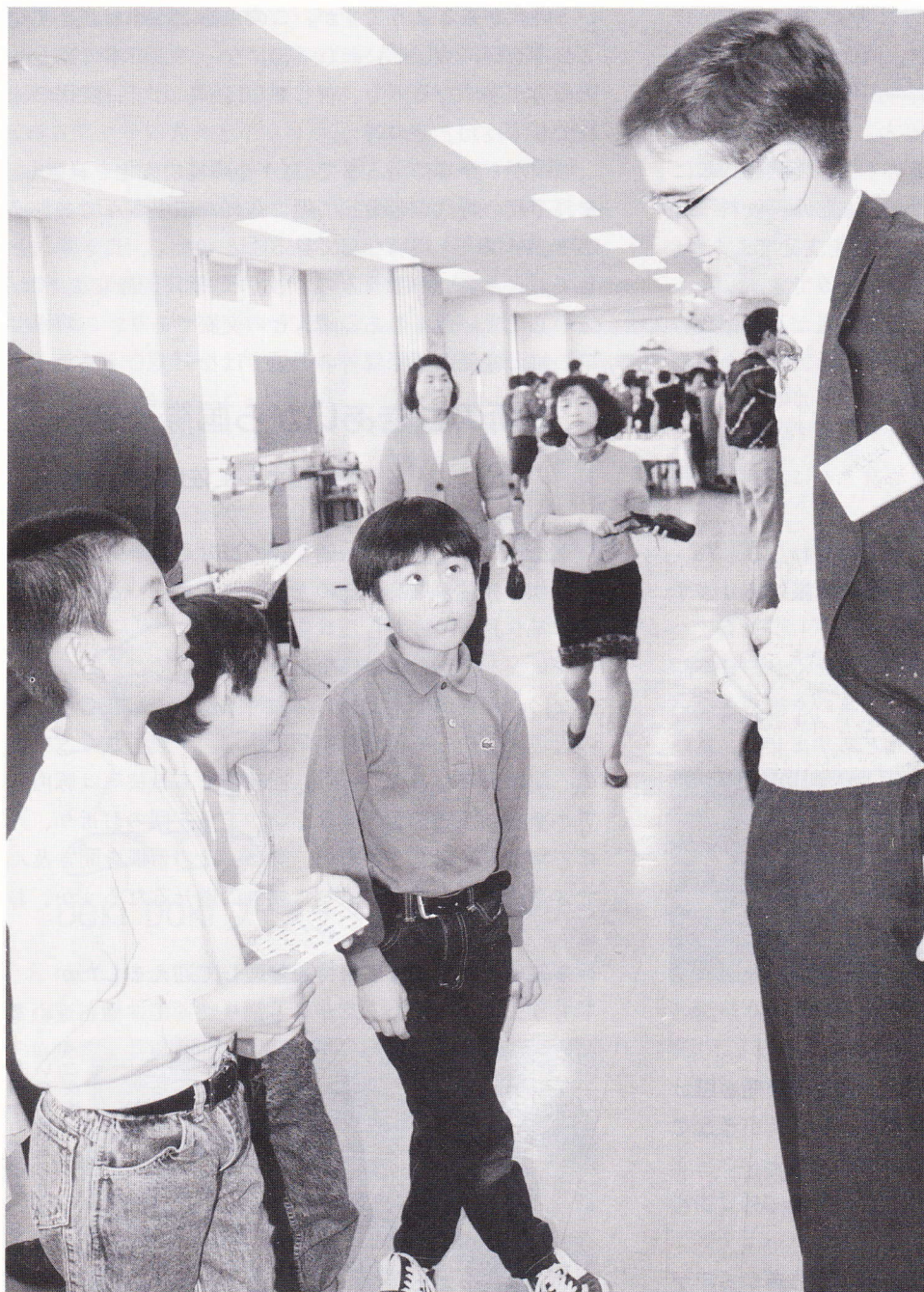
鎌ヶ谷市国際交流協会

編集・広報部会

活動 報告

第2回 KIFAパーティー

特別企画	Internationalで行こう③	2・3面
写真特集	広い会場に育つ世界への心(KIFAパーティー)	4・5面
活動報告	部会ズーム・アップ。会員登場	6面
参加	国際交流研修集会。DOKI DOKI フェスティバル。ほか	7面
あReこRe	韓国料理講習会。事務局から。ほか	8面



ぼくたち親善大使だーい！

英語なんて知らなくて、
ぼくたち言葉のちがいを気にしないんだ。「コンニチワ」と話しかけさえすれば、心と心はつながるんだもん。
(第二回KIFAパーティーで)

特別企画

Internationalで行こう!

③ 今、草の根の国際交流は

小さな水滴が集まって、やがて大きな川になる—国際交流をこんなふうに説明している人がいます。市民一人ひとりの交流しようとする心が集まって、やがて大きな国際交流のうねりになる。そう考えて今回は鎌ヶ谷における草の根交流の姿を訪ねてみました。

お隣さんは
外国の人

田中 ゆりさん
富岡

前回「INTERNATIONALで行こう」欄でジョン・ウィリアムスさんを紹介しましたが、同氏が大変お世話になっていらっしゃるという、お隣の田中のおばあちゃんに、お話をうかがいました。

田中さんのご一家は、戦争の厳しくなった昭和19年に東京三ノ輪から当地に疎開してこられました。食料不足の時代を畑仕事もし、苦労を重ねて一家を支えてこられ、10年前までずっと畑仕事を続けられたそうです。

無理が重なった為か、リュウマチで片足が不自由なのに、今年80才になる田中のおばあちゃんは、今でも家庭菜園の世話もする一方、元気にゲートボール等のスポーツを楽しんでいます。スポーツだけではなく、墨絵のお稽古や老人会で意見発表する等、心身ともに潑刺と活躍されています。

ジョンさんとの付き合いについてお尋ねしました。
——ジョンさんに対し外国人としての意識はありますか

「確かにお顔を見れば日本人とは思えませんが、日本語が大変お上手ですし、何時もにこにこ笑いを絶やさない方なので、外国の方という意識は殆どありません。良い



田中さんはソニアちゃん(ジョンさんの長女)とともにおばあちゃん

人であり言葉に問題が無ければ、日本人と変わりがないのではないのでしょうか。」

——それでは国際交流というのは、言葉の問題を除けば、一般の隣人の交流と少しも変わりがないという事ですね

「そうですね、お互い善意でおつきあいすれば外見の相違は関係ありませんね。」

——けれども普通の日本人とは違うな、と感じる事が

ありますか

「そうですね。日本の男の方に比べて、家事その他気軽に手伝って下さる事でしょうね。その点男の仕事、女の仕事の区別が余り無いようですね。」

——最近は外国の人が日本を訪れたり、日本で生活する事が一層多くなり、「我が家のお隣さんも外国の人」という時代が来るようですが、この点をどう思われますか
「日本も経済大国といわれる様になって、日本で働く外国の方が多くなるのも、善し悪しは別にして、時代の流れでしょうね」との答え。

戦前から今日に至るまで、様々な環境の変化を経験し、それぞれの時代を苦労して過ごされた田中さんであればこそ、外国人を特別な目で見ることなく、良き隣人としてお付き合いができるのでしょう。結局国際交流とは、広い心で思い遣りのある隣人との交流であり、このような草の根の交流が国際親善の近道ではないでしょうか。

近所のつきあいから国際交流へ

弓座さん・佐藤さんご夫妻

東道野辺

東道野辺5丁目に岩城硝子(株)の道野辺寮がある。ふだんは独身社員や単身赴任の方だけが住んでいるところだが昨年5月ちょっとした異変があった。

マレーシアからの研修生がやってきたのだ。

なにぶん寮ができて初めての外国からの滞在者だ。寮の管理人をやっている弓座昭三さん、千鶴子さんご夫妻の心配は大変なものだった。回教徒である彼等は豚肉とアルコールは一切受けつけない。1日5回のお祈り、人差し指で人や物をささない、等々、その習慣を聞き及んで3週間の滞在期間が果して無事に過せるだろうか、お二人の悩みは尽きなかった。

——結局どんなふうに気持を整理して迎えましたか

もう、同じ人間なんだからと割り切って準備を進めま



日頃から親密なつきあいの弓座さん佐藤さんご夫妻

した。私たち日本人が考えて気持ちよく過せることならマレーシアの人にとっても快いだろうと考えました。でも細かい点にずい分気を使いましたよ。例えば食事を作る方には本八幡のマレーシア料理店へ習いに行ってもらったとか。

——そのお気持は研修生に通じましたか

ええ、十分に通じたと思います。5月でしたが、到着した日はうすら寒い天候でした。彼等はしきりに寒いと



◀ 研修生との交換
——佐藤さん宅で

いうので、私の衣料を貸してやりました。みんなすごく真面目なのです。工場の実習から帰ってくれば夜遅くまで勉強していました。

——そのほか、どんな交流がありましたか

滞在期間中、もちろん日曜日がある。貴重な休日をどのように過ごさせてあげればよいかと頭を痛めていた時、強力な助っ人が現れた。寮の隣家でJR東海旅客鉄道㈱に勤めている佐藤信也さんと奥さんの禎子さんである。

相談の結果、房総風土記の丘（印旛郡栄町）へ行くことになった。当日は2台の車に分乗、佐藤さんの息子さん（中2）やその友人も加ってにぎやかな一行となった。もう研修生達は大喜び、昔の家や荷車には大変興味を示した。帰ってから、その夜は佐藤さん宅でカラオケ大会。のりにのった研修生達は踊り出す者も出るありさま。やはり日本の家庭に招かれた喜びは大きかったようだ。

「私にとっても、いい思い出になりました。外国の人でも日本人と同じだなということが家内や息子にもよく理解できたようです」その日の交流をふりかえって佐藤さんはこう話していました。

近所同士の親密なつきあいが生んだ国際交流。心と心の懸け橋は相手が日本人であっても外国人であっても同じだという考え方。弓座さん、佐藤さん二組のご夫妻のお話は草の根の国際交流の基本を教えて下さっているのではないだろうかと考えました。



草の根の原点 身振り手振り

遠藤 孝さん

くぬぎ山

「私たち英語は全然ダメなんです」開口一番、遠藤さんはおっしゃいました。招かれて部屋へ入ってみると、小さなお子さんからおばあちゃんまで、みんなニコニコ顔でパークさんの話に聞き入っていました。

遠藤さんのお宅では、KIFA 研修部会長の岡本さんから

らの紹介で、週に一度ご近所の方達と共にパークさんの奥様から英会話のレッスンを受けるようになり、以来パークさんご夫妻との交流が始まったそうです。（この日、パークさんの奥様は所用があつていらっやしていませんでした。残念！）

「事の起こりは、昨年の夏にホームスティの受け入れをした時にさかのぼります。英語が話せなくても良ければという条件で受け入れたのですが、やっぱり大変でした。それで機会があればと思っていたんです。また受け入れをしたいと思っていますし」と、英会話を習い始めたいきさつを話して下さったのはご主人の孝さん。「あの時は本当に大変だったんですよ。だからもう絶対習おうって…。今は毎週楽しみなんです」と、屈託のない笑顔がとても若々しい奥様の文子さん。お集まりになっていたご近所の方達も英会話を学んだり、パークさんに会うのを楽しみにしているそうです。表情豊かで、身振り手振りも愉快地話すパークさんはすっかりみんなの人気者のようです。そのパークさんご自身はというと、「とても楽しんでますよ。言葉や文化について学ばせてもらっているの、ここへ来ることは僕にとって良い勉強の機会なんです」なるほどなるほど。



▲まるで家族の一員！すっかりうちとけたパークさんと皆さん

パークさんを囲んでの和気あいの歓談は本当に楽しそう。わからない日本語ばかりの中にもパークさんは終始笑顔。時折、日本に来てからの体験談を簡単な英語でユーモアたっぷりに話します。言葉はわからなくても気持ちが通じ合っていればこんなに楽しい時を過ごすことができるんですね。遠藤さんのおばあちゃんも「同じ部屋の中にただ居るだけですけど、何となく意味がわかるような気がして楽しいですよ」と、優しく温かい笑顔で話して下さいました。

「今までは外国人と思うと尻ごみしていたけど、英会話を習い始め、彼らと会うようになってからは度胸がつきました」ご主人の率直な意見に皆さん大きくうなづいて、パークさんご夫妻が帰国するまでには何とか会話になるようにしたいと真剣に話していました。そして、パークさんご夫妻の日本での思い出づくりを手伝うために、レジャープランの話に花を咲かせはじめたのです。



「今年も一層の交流を」開会のあいさつをする佐々木会長。



「はじめまして、どうぞよろしく」一人ひとりが交流の主役。



「外国の方に日本文化を」みやびやかな琴の音を披露する春箏会の太田尻はる子さん他。

広い会場に育つ 第2回KIFA

パーティーの流れ

会長あいさつ	歌・バグパイプの演奏・踊り
乾杯	琴の演奏
外国人参加者紹介	茶のおてまえ（和室）
アトラクション	ビンゴゲーム

参加国

イギリス、中国、韓国、インドネシア、アメリカ、カナダ、メキシコ、スペイン、タイ、中華民国（台湾）、フィリピン、ヨルダン、以上12か国（受付順）

会場の声

中国（男・大学生）

こんなにたくさんの人とは思わなかった。日本に来てパーティーには何回か参加したが、正式なパーティーは初めてです。とても明るくていいと思います。

イギリス（女・語学教師）

いろいろな人と会うことができとても楽しいです。鎌ヶ谷は小さな町ですが、多くの外国人が来ているので驚きました。日本は将来に向けて開けた感じを受けますが住居はとても貧弱で狭いですね。

“お茶”などはぜひ自分でtryしてみたい。

インドネシア（男・大学生）

KIFA パーティーは初めてです。こういう交流はとても良いこと、住んでいるところ（北習志野）にも、このような交流があったらと思います。

学校だけの勉強ではなくて、日本の良いところを学んで国に帰ったとき話をしたいです。

アメリカ（男・大学生）

すごく楽しい。15人ぐらいの人と話をしました。日本人はいつも私達に親切でたすけてくれる。アメリカでもバグパイプは聞くことがあるが、今日のはとてもよかった。

メキシコ（女・語学教師・主婦）

スペイン語で話ができてうれしい。バグパイプはとてもすてきでした。

世界への心 パーティー

—11月23日 市役所5Fにて—

日本ではお友達が作りにくいかな。近くにイギリス人は居るけれど忙しくてお友達になれない。KIFAの活動をしてとてもよかった。

スペイン（女・主婦）

日本語ができないのでいつもさびしい思いをしていました。でも今日はスペイン語で話ができ、とても楽しいパーティーです。

日本（男・中学校長）

去年に比べて party が定着してきたという印象を受けます。とても明るい雰囲気、みなさんうちとけあってすごいいですね。

日本（女・中学生）

ヨルダンの踊りがすごい。バグパイプ、いろんな音があって面白い。

ホームステイ受け入れがきっかけでKIFAに入った。

E（女・主婦）

楽しかった。バグパイプに感激して、胸にジーンときて涙がでちゃった。

ヨルダン（男・大学生）

にぎやかで、とても楽しかったです。外国人がたくさん集まって友好ができた。

日本に来て5年過ぎました。日本人はまじめすぎる。“遊ぶときは遊ぶ”というのがちょっとたりないかな。

今日、自分の出し物を全部やってしまったので、来年は何をやろうかな！

日本（お茶の先生）

外国人のマナーがとても良いのに感心しました。あんなにきちんと座ってられるとは思いませんでした。ある程度興味を持っているので、きちんとしているのかもしれないですね。

初めてこのパーティーに参加しました。今後も日本の良いもの（お茶・お花・お琴など）をとりまぜてご紹介できたらいいと思います。



「これが日本のティーセレモニー」 不白流（中山恵美子さん他）の皆さんは和室で大活躍。



バグ・パイプを演奏するスコットランドのイアン・モリスンさん。「胸にジーンときて涙が出た」と大好評。



最後の“締め”はやっぱり、サミールさんの踊り。今年もさまざまなパフォーマンスを見せてくれました。

2年目充実してます!!

交流部会

部会長 藤谷 淳子

年号の改まった'89年度はKIFAにとってホームステイ事業スタートの年でもありました。アメリカの高校生の折り目正し、明るさはホストのご家庭に少なからず影響を与えたとか。そんな中「我が子（受け入れた高校生）」に会いに渡米する予定の方々がおられるようです。まずは受入れ事業の成果が出た事を嬉しく思います。これが縁でオレゴン州との交流が深まるといいですね。ホストファミリーをしなくても身近に外国人はいます。困っている人、淋しそうな人に、ちょっと声をかけてみませんか。少しの積極性が草の根の交流を広げますから…。

研修部会

書記 齊藤 和美

9月に始まった語学研修講座も、3月11日のパーティー形式による閉講式をもって、終了しました。単に語学を勉強するだけでなく、新しい仲間との出会い、学ぶ楽しさを体験して戴けたらと思っています。次期語学研修講座もさらに充実したものになるよう、企画検討中です。

もうひとつの大きな事業の「通訳ボランティア制度」には、現在22名のボランティア通訳者が登録されています。活動が軌道に乗るまでには、まだ時間がかかりそう

ですが、広くPRしたり、研修会を開いたりして行きたいと考えています。

派遣部会

部会長 荒井 茂行

実質的には、初めて取り組んだ派遣事業でした。様々な苦労がありましたが、報告書の発行をもって今年度の活動も一応終ろうとしています。

布石を敷いたばかりで、これから派遣事業の充実を図っていかなくてはならないと思います。皆様の一層のご協力をお願いします。

〈部会員募集〉奉仕の心と、協調性のある方なら誰でもできる活動です。多くの方のご参加をお待ちしています。詳しくは事務局まで。

広報部会

副部会長 西村久美子

今年度は、KIFA plaza 3・4・5号を発行しました。親しみやすく、読みやすい紙面作りをこころがけ、鎌ヶ谷の国際交流に関する話題とKIFAの働きを追っています。「Internationalで行こう」は連載を試み「写真特集」は一目瞭然「見れば分かる」を目指しました。

不慣れな取材にもかかわらず、みなさまのご協力ありがとうございました。今後もKIFA plazaを「会員の声」で育ててください。

広報部会からお願い。カメラ、文章、イラストなど腕におぼえのある方大歓迎。ぜひ一緒に活動しましょう。腕に自信のない方もぜひ。

会員登場・嶋田亜希さん

出席率は100パーセント



KIFAが発足してからもう2年。会員も熟年の方から孫のような中学生まで幅広く、活動の広がりを感じます。

その中で、入会以来、KIFAの催し物すべてに参加している方がいます。栗野の嶋田亜希さん、笑顔のさわやかな高校2年生。さっそくお話を聞きました。

「広報紙を見た両親のすすめで入会しました。私自身も好奇心旺盛で、いところが西ドイツに留学していることもあって、国際交流には興味をもっていたんです」将来は自分も海外へ留学したいと思っている亜希さん。入会

の時も友人をさそって一緒に入会しちゃう行動派。

「今までは、学校と家庭との行ったり来たりの生活でしたが、KIFAに入って世界が広がりました。最初のパーティーでは外国人と話しできなかったけど、次の時にはアメリカの方とお話ししました」勇気があれば大丈夫と思ったそうです。

料理講習会も「年代の違う方や大学生のお姉さん達と話しができてやっぱり世界が広がった感じで楽しかったです」今は、語学研修講座の中国語を受講して、チャレンジしているところ。このチャレンジ精神こそ「催し物すべてに参加」のひけつのようなのです。

今後の活動についてはどうでしょうか。

「高校生にとって国際交流ってとても興味あることの一つだと思います。KIFAでも「高校・大学生の集い」があるといいな。参加しやすいですね」

「もっと自分の世界を広げたい。世界中にお友だちを作れたら…。そして心の大きな人間になればいいな」嶋田さんの夢は大きくふくらみます。

全国的なホストファミリーのネットワーク作りを

-----婦人国際交流研修集会の報告／広報部会 西村久美子-----

KIFA 事務局に勧められ、昨年11月29日から2泊3日の日程で、婦人国際交流研究集会にでかけました。会場は埼玉県にある国立婦人教育会館。開催要項どおり使用言語は日本語でありますように、ついでに「KIFA plaza」を配布してPRにもつとめねばと緊張して出発。

今回の「女性と国際交流」に関する研究集会には、全国から国際交流にたずさわるボランティア団体の女性メンバー約60人と10ヶ国17人の在日外国人女性が参加、「生活の中の異文化交流」をサブテーマに、異文化理解の方法、団体どうしの情報交換、草の根レベルの国際交流活動の報告など活発な討議が行われました。

在日外国人の電話相談も

初日は草の根レベルの国際交流活動に関する事例の紹介がありました。神奈川の「ウィ・ラブ・アジアの会」は在日アジアの人々とチャリティコンサートを開催、一緒にミュージカルを制作していくなかで異文化を理解し子どもどうしの交流を深めている活動を紹介、「日本アガペハウス」からは在日外国人の電話相談、救援活動が報告され、大分の「郷土の文化と国際交流を考える会」は約500のホストファミリーが「お正月を大分で過ごそう」などユニークなよびかけによって、すでに800人以上の外国人を家庭に迎え入れた実績を、また「金沢を世界にひらく市民の会」は金沢で毎夏4週間の外国人向け日本語セミナーを開くまでになっ



DOKI DOKI フェスティバル中央大会

KIFA では昨年9月9日、三橋記念館でバーバラ寺岡さんを招いて講演会を開きました（前号で既報）。これは千葉県教育委員会主催の「DOKI DOKI フェスティバル—婦人の国際交流—」の地域大会として開いたものです。

その中央大会が11月20日・21日の両日、幕張メッセ国際会議場で行われました。

当日は天気も良く、当協会では研修部会を中心に参加しました。両日にわたる行事としては、「見わたせば国際社会」と題したトーキングをはじめ、レディースサミッ

た経緯を紹介。熊本の「滞日アジア女性の問題を考える会」からは、熊本に出稼ぎにきて目にあまる待遇を受けているフィリピン女性を救援する活動の報告がありました。

2日目はグループ討議

2日目は、つぎのテーマで小グループに分かれて部会討議をしました。①情報を通じての異文化理解 ②助け合い、支え合う社会を目指して（在日外国人の救援活動）

③地域での異文化交流（ホームステイ・ホームビジット） ④地球世代を育てる（国際理解教育） ⑤茶の間からの異文化理解（国際結婚）

私が参加した③部会では、各々所属団体のホームステイの報告と問題点などが話し合われ、その結果全国的なホストファミリーの草の根ネットワーク作りの話がまとまるまでに発展し、大きな成果をあげました。

これら研修プログラムでの学習とともに、私にとってなによりの収穫は滞在中の自由交流のなかで「行動派の女性たち」にたくさん出会えたことでした。

「帰国した中国残留孤児の家族が困っていたから…」(所

沢市)、「家の近くにある“アジア学院”で学んでいる留学生を応援しよう…」(那須町)、「子供が独立して部屋が空いたのでホームステイを…」(大分市)など、国際交流のなかに女性ならではの生活に基づいた自然さとやさしさと強さをみました。



私の経験したカルチャーショック

渡辺 清史

昨年のアメリカへのホームステイ。事前研修の時、「名刺をつくって下さい」という事務局からの要望。「えっ、アメリカへ行っても名刺を使うのか」日本人の名刺交換はあちらでは評判が悪いというのに。まあいいや、ちょうど新しいのをつくろうと思っていたからと、KIFAの肩書きを入れて持って行った。向うへ着いてみたら、何ということだ。アメリカ人もみんな持っているではないか。店に入ると店名入りのものがレジのところに置いてある。使い方は日本人と少し違うばあいもあるが名刺の大きさは全く同じ。

「名刺よ、お前もか」と叫んでしまった。
(渡辺さんは昨年のグルロイ市への派遣者です)

ト、外国人日本語弁論大会、シンポジウムなどをメインイベントとして行われました。またDOKI DOKI地域フェスティバル展という県内の各市町村国際交流の活躍を主として写真で展示した場所に一区画をもらい、ここ2年間のKIFAの活動を展示して参加者に見てもらいました。

発足して2年目のKIFAにとって、同様の市民レベルの国際交流を展開している県内の団体のようすや姉妹都市との交流のしかたなどを一堂に見ることができたのは大変、有意義だったと思います。今回のDOKI DOKIフェスティバルに参加し、学んだことを今後の活動に生かして、より良いKIFAを築いていきたいものです。

恵鮮さんの韓国料理

2月25日、交流部会は北部公民館で韓国料理講習会を開催しました。講師に韓国大邱出身の朴恵鮮さんを迎え、参加者36名は本場仕込みのキムチ、ビビンバ、スープ、サムケタン（丸鶏肉の玄米づめ蒸し）づくりに挑戦しました。韓国料理は多種類の調味料と香味野菜をつかって繊細な味を出し、「手先の料理」といわれているように手でいい材料を混ぜ合わせ、味をなじませるのがコツとか。

会食の時には、韓国音楽が流れるなか恵鮮さんは白いレースのチマチョゴリ姿で登場。出来上がった料理を食べながら、参加者の質問に答えて、韓国のこと、日本人と国際結婚するに至ったこと、日本に住んでからの失敗談など気さくに話しがはずみ、楽しい交流になりました。



丸鶏の扱いを説明する朴恵鮮講師
(前列左)

事務局からのお願い

会員の皆様、今年度中は各種事業への積極的なご協力、ご参加をいただきましてありがとうございました。

さて、1990年度の会員資格更新の手続きは、4月2日より受け付けます。協会の事業を支えるのは皆様一人ひとりの力です。よろしくお願いいたします。なお、お知り合いで協会加入希望の方がいらっしゃいましたら、随時入会手続きを受け付けておりますのでお知らせください。

また、新規会員募集とあわせてホームステイ受入家庭や通訳ボランティアの募集もいたしておりますのでよろしくお願いいたします。(詳細については、協会事務局へお問い合わせください)

鎌ヶ谷市役所内 鎌ヶ谷市国際交流協会事務局
電話 45-1141 内線550

プラザの泉

Don't expect your life to be
a bed of roses : there would
be no fun in it if it were.

諸君の一生が、バラの花の
園だろうと期待してはいけ
ない。もしそんな一生であ
ったとしたら、おもしろくは
あるまい。(B-Pのこぼ)

島根の国際フォーラムに参加

交流部会員の^{しんき}新宮清志さんは、昨年7月29日、30日、島根県平田市国際交流協会などの主催による「一畑薬師国際フォーラム」に招待されパネラーとして参加しました。

『地域レベルの国際交流は「まち」に何をもたらすか』をメインテーマとし、アメリカ・西ドイツ・韓国・中国・日本等から約300名が参加。NHKエンタープライズの勝部領樹氏による基調講演『世界との新しいきずなを求めて』の後、3つのテーマに分かれ討論が行われました。

新宮さんが参加した分科会は「国際交流と地域の活性化—ふれあいをどう生かすか—」でした。自身のアメリカ留学体験や、KIFAでの活動を通して感じる「地域の活性化のためだけにとどまらず、平和運動のひとつとして地球的意識でものを考える交流の必要性」などを述べて、参加者の賛同も多かったそうです。

ご協力を!

難病の骨肉腫治療のため来日中のタイの少年、スチバン・チッピーマンチャイコーン君(13)を救うため、八千代市の市民グループ「難病のタイ少年を救う市民の会」が治療費集めに立ち上っています。会員の皆様にもご協力をお願いします。詳細については、直接、同市民の会事務局(民芸品店バオバブ内)へお問い合わせください。

TEL 0474 (84) 1998

お悔み申しあげます

KIFA 語学研修講座(中国語会話)の講師として、ご協力をいただいております船山定五郎さんが昨年12月23日に急性心不全により急逝されました。ここに謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

☆最近では取材にいくにもいっぱしの記者きどり。しかし取材先で「通訳して下さい」にはまいった私。「I'm sorry, I don't speak English, well」部屋に入るなり大声でまくしたてた。先手必勝さ、ふふん。だけど話せないんじゃ取材もできないじゃない? ひょっとして……。

☆今回のKIFA plazaはいかがでしたでしょうか。ご意見やご感想などありましたらぜひ広報部会まで!お待ちしております。(ついでに広報部会員も募集中です)(G)